

2023 年度 シオン園 事業報告

1 総括

2022 年度に策定した再建計画を 2023 年度は着実に実行し、遅れ気味であった項目についても進捗し、職員みんなが頑張った 1 年だった。また、後述の主な取組の実施状況と評価の各項目についても、概ね評価できる結果だったと思われる。特に、記録システム導入による「情報の共有」や、「報連相」+「確認」については徐々にではあるが浸透してきている。

養護施設においては、児童と職員との関係性も構築できており、子どもの声がより反映された施設づくりに努めた。

一方、職員の確保については苦勞したが、職員個々のスキルアップは十分に図られてきていると感じる。

児家センを中心とした地域支援については、新たな助成金を活用した食支援や新たに要対協議への参加など強化できている。また、学童クラブにおいても地域にニーズを汲み取った運営を行った。

収支についても、今年度は大幅な増益となり、人件費積立金を確保。今後も、常に収支のバランスを確認するとともに、補助金や助成金を活用し、更なる安定運営に努めていきたい。

2 主な取組の実施状況と評価

(1) 子どもや職員の声が事故や不適切な養育の防止、生活の場(職場)の安全安心に反映される施設作り

全体的に、児童と職員、職員同士の会話の場は大幅に増えてきており安心安全な施設づくりが進捗していると感じる。

- ①職員、意見箱、苦情受付、アドボケイト、児童相談所、第三者委員等、子どもを取り巻く様々な相談支援の窓口を、必要に応じて利用した子ども数は 24 件で職員の異動等に関することや、Wi-Fi 環境に関するものがほとんどであったが、中には児童同士のトラブルによる警察への相談が 1 件あった。
- ②上司、メンター制度、各種会議、職員の意見箱、ハラスメント相談、産業医等、職員を取り巻く様々な相談支援の窓口を、必要に応じて利用した職員数は 137 件であったが、実質的な相談件数は少なく、多くが提案や確認事項等が多かった。しかしながら、このような形でも相談支援窓口を利用する職員が増えたことは施設としてもチームとしての形ができてきている表れだと感じる。
- ③上記②のうち、子どもや職員の声によって、改善された職場環境の件数は 43 件だった。すぐに改善できるものから時間と費用がかかる案件までである中で、運営経営委員会で優先順位をつけ実施した。
- ④ホーム会議、トラブル発生時の話し合い、SNS 学習会など、児童と職員が話し合った会議の回数は 94 件であり、内訳としては毎月のホーム会議 72 件(6 ホーム×12 月)、学校等でのトラブル案件 12 件、携帯電話などの使用方法の SNS の件数 10 件であった。

- ⑤児童自身が自立支援計画策定会議に参画した人数は、事前の意見確認までで終わってしまい、施設長との会議までは至らなかったため、2024年度は小学生高学年以上の会議参加に取り組むこととしている。

目 標	実績	評価
① 相談支援の窓口を、利用した子ども数	① 24件	4
② 相談支援の窓口を、利用した職員数	② 137件	
③ 改善された職場環境の件数	③ 43件	
④ 児童と職員が話し合った会議回数	④ 94件	
⑤ 児童自身が自立支援計画策定会議に参画した人数	⑤ 0件	

- 1 達成できなかった 2 あまり達成できなかった 3 ある程度達成できた
4 概ね達成できた 5 達成できた (以下同)

(2) 社会的養護に関心を持つ職員の確保と、仕事のリスクを理解して自己研鑽できる職員の養成

職員確保については、厳しい状態が続いているが、職員同士で協力し多くの研修受講や振り返りによりスキルアップは確実に進められたと感じる。

- ①ハローワーク以外の方法で新たに取組んだ求人方法については、「保育のおしごとフェア」や「九州看護福祉大学合同就職説明会」への参加をはじめ、入職に繋がりやすい実習生の受入れを積極的に行った(延7校、118日、25人)が、入職にはつながらなかった。
- ②職員確保率(採用予定者数に対する実採用者数)については、CW4人の退職者に対して2.5人の採用にとどまった。相談員1人と管理宿直者(女性)2人は採用できたが、心理士1人については、試行期間までに至ったが本採用には至らなかった。また、看護師1人については応募者がなかった。
- ③ヒヤリハット件数と内容については、「気づき」をメインとした内容を見直し、1週間に1つの気づきを提出してもらい、それを全職員で共有したため、大きなケガや事故には至らなかった。
- ④ストレスチェックについては、46人が実施し、うち高ストレス者7人に対しては、産業医に繋ぐなどの対応を行った。また、経年比較等を行い、ストレスの傾向や要因の分析等を行った。また、健康診断については、対象者56人中55人が受診した。
- ⑤採用、配置、昇進、昇格の基準と人事考課体制の構築(職員の専門性、職務遂行能力、施設への貢献度などの評価)については、構築(案)について、全職員に説明しただけで終わった。
- ⑥研修の参加履歴については、各職員のいままでの主な研修への参加記録等を整理するとともに、今後のスキルアップのための研修計画を構築するとともに、新年度からは指名制に希望制を加えた研修制度にシフトした。

目 標	実績	評価
① ハローワーク以外の求人方法 ② 職員確保率 ③ ヒヤリハット件数と内容 ④ ストレスチェックや健康診断結果 ⑤ 人事考課体制の構築 ⑥ 研修の参加履歴	① 同就職説明会参加、実習生の受入れ ② 61.1%(9人に対して5.5人の採用) ③ 188件 ④ ストレスチェック 46人実施 健康診断 56人中55人実施 ⑤ 体制を構築し、全職員に説明済 ⑥ 全体研修受講 4件、8日 個別研修受講 132件、215人	4

(3) 働きやすい職場に近づくための環境整備と業務の在り方検討

働きやすい環境整備については、運営経営委員会を中心に職員・委員会からの意見を整理し実行するシステムがほぼ構築できた。今後も継続・充実していきたい。

- ① 各ホームの職員体制(目標4人)については、年度当初22人であったが、年度末では19人(中途退職者1人、年度末退職者3人、中途採用者1人)であった。そのため、新年度(新規採用CW1.5人)では、地域枠で採用した相談員等(4人)についても、ホームでの勤務体制とし23.5人とした。(97.9%各ホームCWだけでの人数では厳しいため、自立支援専門員等ホームに配置。CWだけでの人数では85.4%)
- ② 超過勤務時間数については、緊急時以外の事前の時間外届出(超過勤務)制を徹底したため6月以降は大幅に減少し、本来の時間外(超過勤務)となった。(本俸に対して割合2021年度7.0%、2022年度9.6%、2023年度3.1%)。有給取得状況は、全体の平均取得日数11.8日、平均取得率54.6%となった。また、施設ごとでもシオン園10.9日、52.1%、キッズ11.0日、52.5%、学童10.7日、45.6%と大きな差はなく取得できた。
- ③ 中途退職者の割合については、2023年1月に発生した児童虐待(頭をコツンとたたく)を起し懲戒処分を受けたCW1人と、試行期間満了で契約を打ち切った心理士1人であった。
- ④ 産業医と衛生管理者2人での職場巡視であげられた件数は29件で、20件は改善したが、残りについては、新年度に予算計上し取り組むこととした。
- ⑤ 職員間の交流イベントの回数と参加者数は、コロナ感染症も収束方向であったため、感染対策を徹底し歓迎会、忘年会等を実施した。また、少人数の4グループによる親睦旅行も4年ぶりに実施した。

目 標	実績	評価
① 各ホームの職員4人体制 ② 超過勤務時間数、有給取得状況 ③ 求職者、中途退職者の割合 ④ 職場巡視であげられた件数と改善件数 ⑤ 職員間の交流イベントの回数と参加者数	① 97.9% ② 超過勤務割合3.1%(本俸に対し) 有給休暇 平均取得日数11.8日 平均取得率 54.6% ③ 中途退職者2人 ④ 69.0%(20件/29件) ⑤ 歓迎会:25人、忘年会:28人 送別会:28人、親睦旅行:24人	4

(4) 事業連携による在宅児童(家庭)支援の強化

家庭支援としては、家庭支援専門相談員 2 人の配置により家庭や関係機関とも連携ができています。また、里親支援としても 2 件の里親委託が完了した。

児童家庭支援センターでは、新たに他の助成金等を活用し宅食サービスを実施することができ、地域のニーズ等を把握することができたが、今後の新規事業までにはつながらなかった。なお、2024 年度から 3 年間の熊本県の児童家庭支援センターの業務委託が受託できたため、新たな事業等も模索していきたい。

- ① ショートステイの利用者数、利用日数については、児童養護施設の充足率が高かったため、延利用者 34 人、延利用日数 75 日であった。
- ② レスパイトの利用者数、利用日数は、上記①のうち延利用者 2 人、延利用日数 4 日と少なかった。
- ③ 宅食サービスの利用件数は補助金等(4 ヶ月分、約 31 万円)を利用し延 108 世帯、406 人分ができた。また、居場所活動(寄せ鍋の会)についても 5 回の開設ができた。
- ④ 県北地区自治体との事業受託に向けた協議は、学習を主体とした居場所事業について荒尾市と打ち合わせ実施したが、受託するためには週 5 の開設と食支援が必要なため現状では場所の確保が困難と判断し、別の形を模索していく。

目 標	実績	評価
① ショートステイの利用者数、利用日数	① 延利用者 34 人 延利用日数 75 日	3
② レスパイトの利用者数、利用日数	② 延利用者 2 人 延利用日数 4 日	
③ 宅食サービスの利用件数、居場所活動(寄せ鍋の会)の開設日数	③ 宅食サービス利用 延べ 108 世帯 406 人 寄せ鍋の会 5 回実施。	
④ 県北地区自治体との事業受託に向けた協議の進捗状況	④ 無	

(5) 数字根拠をもとに先を見通した計画的な予算運営

計画的な運営については、毎月の収支を確認しつつ新たな収入の模索と対策と、歳出の抑制を検討しつつ運営していった。年度末では大きく余剰金が見込まれたため、基金の積立ができた。

- ① 財政の経年変化については、毎年の決算を分析し、運営経営委員会にて周知説明したが、大まかな財政状況の理解で終わり、細かい部分までの理解までは至らなかった。
- ② 児童養護施設部門の人件費割合については、年々減少している。要因としては、安定的な収入確保が大きく影響している。(2019 年から 78.5%、74.8%、74.2%、71.2%、69.4%)
- ③ 寄附金については、年々減額傾向ではあるが、助成金獲得については、新たに「赤い羽根福祉基金盛和塾社会人定着応援プログラム」120 万円をアフターケアのために取得したが、使用したのは 20 万円ほどだった。今後は、アフターケアの仕組みを構

築したい。

- ④ 事業費及び事務費割合の割合については、近年 5 カ年事業費で 11%前後、事務費で 5.5%と安定している。
- ⑤ 積立金については、昨年度まで人件費積立金が 5,500 千円、施設整備積立金が 16,297 千円の厳しい状況だったが、今年度末は人件費積立金を 30,500 千円、施設整備積立金を 26,297 千円まで増額することができた。

目 標	実績	評価
① 財政の経年変化	① 事業活動資金収支 対前年度 17.2%増	4
② 児童養護施設部門の人件費割合	② 69.4%	
③ 寄附金、助成金獲得金額	③ △32.7%	
④ 事業費及び事務費割合	④ 事業費割合 10.7%(対前年度△0.1%) 事務費割合 5.5%(対前年度△0.5%)	
⑤ 積立金の推移と執行状況	⑤ 人件費積立金 30,500 千円(対前年度 771%増) 施設整備積立金 26,297 千円(対前年度 61.4%増)	

3 サービスの利用状況

(1) 児童養護施設シオン園

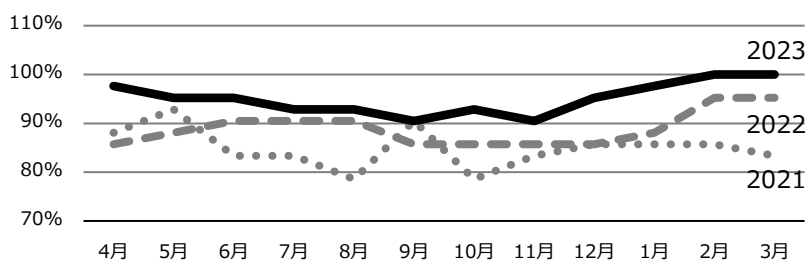
平均充足率が上がっている背景として、退所児童が少なかったことに加え、子ども達の生活が安定した結果、新規の受け入れが順調に進んでいったと思われる。また、入所の段階において、本人、家族、児相、市町村、そして施設で支援方針(家庭復帰、里親委託、施設からの自立、のいずれか)を共有することで入所後の支援がスムーズに展開され、入退所の計画が立てやすくなったことも充足率の高さに影響していると考えられる。

【月別充足率の推移】

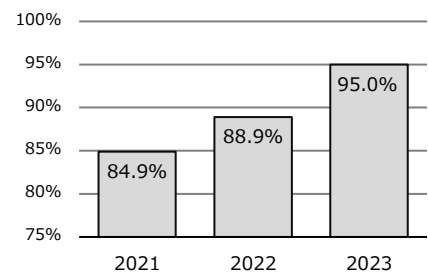
(毎月初日の人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	前年度計
児童数(人)	41	40	40	39	39	38	39	38	40	41	42	42	479	448
充足率(%)	97.6	95.2	95.2	92.9	92.9	90.5	92.9	90.5	95.2	97.6	100	100	95.0	88.9

【過去3年間の月別充足率の推移】



【過去3年間の平均充足率】



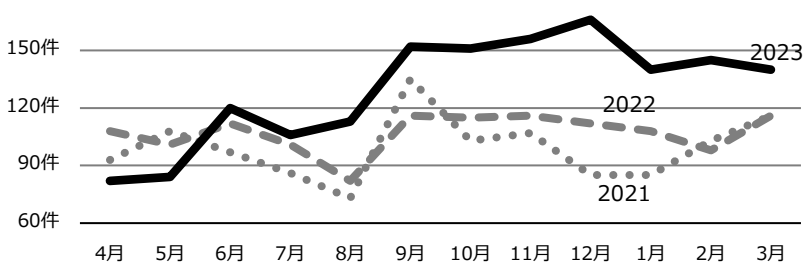
(2) 児童家庭支援センター キッズ・ケア・センター

2022年度の新規ケース107件、相談延べ件数が1285件に対して、2023年度の新規ケース130件、相談延べ件数1555件と大きく相談件数が伸びている。要因としては、多子家庭の相談により相談対象児童が増えたことやコロナが5類に移行したことによる問題行動の表面化が考えられる。また、関係機関と連携がとれていることから新規ケースの紹介につながったことも大きいと思われる。

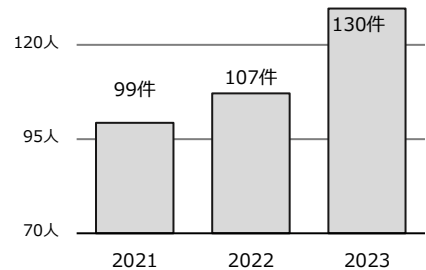
【月別相談件数の推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	前年度計
相談件数	82	84	120	106	113	152	151	156	166	140	145	140	1,555	1,285

【過去3年間の月別相談件数の推移】



【過去3年間の月平均相談数】



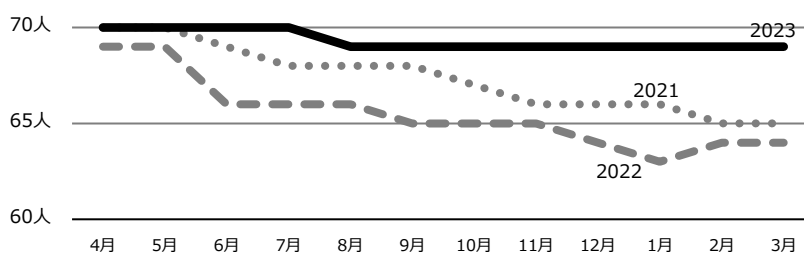
(3) 学童保育 荒尾中央学童クラブ

学童保育については、平均充足率は99.0%であった。例年、夏休み後に自宅での留守番練習等のために減少する傾向にあったが、今年度は長期入院した児童1人のみの減少となった。増加の要因としては、共働きの家庭が増加したことと、学童保育に対するニーズが高いことが考えられる。

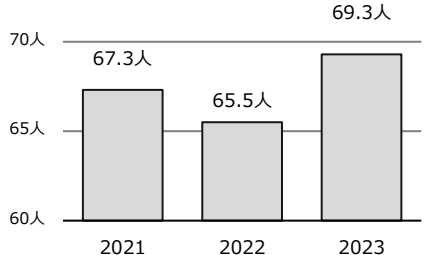
【月別利用者の推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	前年度計
利用者数	70	70	70	70	69	69	69	69	69	69	69	69	832	786
充足率	100	100	100	100	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	99.0	93.6

【月別利用者の推移】



【月別利用者の推移】



4 苦情対応の状況

【苦情解決委員会】

案件なし

【年間の苦情件数・内容】

方法	件数	内容	対応状況
意見箱	1	LGBTQ+について、職員、子どもともに学習してほしい	職員のみ実施
	2	欲しいものがある(自転車、染粉)	解決済み
	4	ホーム内設備の不具合	解決済み
	3	生活場所の変更	解決済み(面談を実施)
	6	職員に戻ってきてほしい/変えてほしい	解決済み
	1	児童間の暴言、暴力の被害(小学生)	小学生全員と職員で話し合いを実施
	1	職員の対応への苦情(職員によってファミリープールを使わせてもらえない)	解決済み。職員で話し合いを実施。
	2	その他(ふざけて投函したもの、勘違いで投函したもの)	—
	小計	20	
苦情受付担当者	1	LGBTQ+について、職員、子どもともに学習してほしい	職員のみ実施
	1	職員の職務態度について	該当職員に注意
	1	子ども間の暴力、脅しについて	該当児童、児相と話し合いを実施
小計	3		
職員(苦情受付担当以外)	1	幼少期(13~14年前)に職員から暴力を受けていた	法人、児相等に報告
小計	1		
児相	1	ホーム職員の関わりへの不満	該当職員に注意
	1	学校や園内でのいじめ被害	小学生全員と職員で話し合いを実施
小計	2		
アドボケイト	0	なし	
小計	0		
第三者委員	0	なし	
小計	0		
警察	1	子ども間の暴力、脅しについて	該当児童、児相と話し合いを実施
小計	1		
合計	27		

5 主な行事の実施状況

4月	1日(土)	辞令交付式・法人新任職員研修(8日・9日)
	14日(金)	入園・入学祝式
5月	3日(水)	かき氷、ラムネ早飲み大会
6月	4日(日)	荒尾市健康福祉祭参加
7月	22日(土)	シオン園・荒尾教会コンサート
8月	7日(月)	イングリッシュキャンプ(児童2人：東京)～9日(水)
	18日(金)	小岱焼き体験
	19日(土)	魚釣り体験
10月	8日(日)	タクシー招待旅行(久留米)
	28日(土)	県養協スポーツ大会(女子バトミントン準優勝)
11月	3日(金)	にじいろCAP子どもワークショップ～5日(日)
	11日(土)	こども祝福式
	19日(日)	ミカン狩り
	26日(日)	グリーンランド招待
12月	23日(土)	教会クリスマス
1月	1日(月)	新年の集い
2月	23日(金)	味噌づくり
3月	1日(金)	卒園・卒業祝式
毎月	教会学校、SNS学習会、食事を作ろう、生花教室、茶道教室、ヨーヨー教室 助産婦さんとの茶話会、SBI英語クラブ、アドボカシー	

6 研修の実施状況

全職員研修

アタッチメント研修	2日	7/14(金)、9/1(金)
アンガーマネジメント研修	1日	9/28(木)
にじいろCAP職員研修(子どもの権利擁護)	3日	11/13(月)、1/16(火)、1/17(水)
アドボカシー研修(子どもの権利擁護)	2日	7/19、2/27(火)

個別研修

5月	23日(火)	CW部会新任職員研修	オンライン	1人
6月	1日(木)	児童虐待に係る市町村及び児家セン連絡会議	熊本市	2人
	13日(火)	九州児童福祉施設職員研修大会～15日(木)	佐賀市	3人
	24日(土)	全国児童養護問題研究会	大阪市	1人
7月	12日(水)	職員のネットに関する知識向上	オンライン	8人
	13日(木)	四施設合同研修会	山鹿市	7人
	21日(金)	全国児童家庭支援実務者研究会	オンライン	1人
8月	21日(月)	ルーテル社会福祉協会総会	熊本市	3人
	22日(火)	るうてる法人会連合総会	熊本市	3人
	29日(火)	児童発達支援管理者責任者基礎研修	熊本市	1人
9月	12日(火)	西日本児童養護施設職員セミナー	京都市	1人

	15日(金)	児童養護施設等職員向け虐待防止研修(一般)	熊本市	3人
	20日(水)	性問題行動を抱える児童の理解研修	オンライン	1人
10月	6日(金)	県養協 新任職員現任訓練	熊本市	2人
	13日(金)	全国児家セン研究協議会	札幌市	2人
	〃	児童養護施設等職員向け虐待防止研修(リーダー)	熊本市	5人
	16日(月)	生と性について研修	熊本市	5人
	20日(金)	児童養護施設等職員向け虐待防止研修(基幹職員)	熊本市	1人
	22日(日)	FSW研修～23日(月)	神奈川県	2人
	26日(木)	福祉サービス苦情解決研修会	熊本市	1人
11月	6日(月)	全国児童養護施設長研究協議会	神戸市	1人
12月	7日(木)	県児家セン研修会	天草市	2人
	8日(金)	性的マイノリティーについて	熊本市	2人
1月	25日(木)	フォスタリング機関人材育成プログラム～26日	福岡市	1人
2月	12日(月)	困難を抱える子供たちへの支援検討会	熊本市	2人
	17日(土)	ソーシャルワークの視点から見る子供の居場所づくり	久留米市	1人
	21日(水)	発達症と愛着の問題の理解	熊本市	3人
3月	8日(金)	FLECフォーラム～11日(月)	オンライン	1人
	8日(金)	高機能化、多機能化に向けた人材育成研修	オンライン	1人
毎月	県養協 施設長会、援助部会、事務担当者会議、心理部会、看護師連絡会、給食部会 他 ホームカンファレンス			
	支援会議(3回/年)、ケース会議(5回/年)			

7 施設整備等の状況

特になし